

<対象>小学校高学年以上

<ねらい>

- ・写真から Bangladesh の少女たちに関心を持ち、生活を想像する。
- ・家事使用人として働く少女の存在を知る。
- ・少女たちの置かれている状況や支援のあり方について考える。

<すすめ方>

- ① 家事使用人として働く少女の写真 (a-1,a-2) を各グループに配布する。  
この写真は Bangladesh のある少女の生活を表す写真であることを説明する。
- ② 各グループで、写真に映っている少女は何をしているか、  
何歳くらいか、どんなことを考えているかを想像し、意見を出し合う。
- ③ 各グループで話し合ったことを発表し、グループ毎に様々な見方があることを知る。
- ④ 写真に映っている少女は家の手伝いをしているのではなく、家事使用人として働いていることを説明する ((a)の補足資料参照)。スライドや資料で写真や数値を見せながら、Bangladesh には家事使用人として働く少女たちがいること、彼女たちに対して NGO が行っている支援活動について説明する。
- ⑤ 各自、以下の自分たちの情報を書き出してみる。  
1. 年齢 2. 将来の夢 3. 働いたことがあるか
- ⑥ 支援センターに通う少女の写真パネル (b) を各グループに配布する。  
\*年齢や仕事を始めたタイミング、将来の夢、表情などから少女たちのことを想像し、自分と似ているところや違いを考えてみる。  
---- ここからはさらに深める場合----
- ⑦ ケーススタディ (c) を各グループに配布する。
- ⑧ ある少女のケーススタディを読んで感じたことなどの意見を出し合う。  
\*ある少女のケーススタディから 少女たちの置かれている状況を理解し、必要な支援やセンター (NGO) の役割を考える。

## POINT!

1. パネルを見て「きれいな格好をしていて貧しく見えない」という意見が出るかもしれません。少女たちに写真を撮ると伝え、いつもオシャレをしてきてくれます。アクセサリーや服、お化粧などのオシャレが好きなのは日本と変わらないという視点で見ると、少女たちの存在がより身近に感じられるかもしれません。
2. 家事使用人として働く少女への支援活動について説明をする際、動画を活用するとより理解が深まります。ぜひ活用ください。

書籍名：わたし8歳、職業、家事使用人。(合同出版)

著者：日下部尚徳(著) 藤崎文子・京井杏奈・藤岡恵美子(執筆協力)

Bangladesh には、「家事使用人」と呼ばれる子どもが42万人います。よその家に住み込み、雇い主やその子どもたちのお世話をします。他人の家の家事をする多くの子が10代の少女たちです。中にはまだ10歳に満たない女の子もいます。世界にいる1億5200万人の児童労働者のうち、家事使用人として働かなければならない女の子のきびしい現実、直面する問題や課題、私たちに今なにができるのかを紹介します。



特定非営利活動法人

シャプラニール=市民による海外協力の会

お問い合わせ先

〒169-8611 東京都新宿区西早稲田2-3-1  
TEL: 03-3202-7863 / FAX: 03-3202-4593  
MAIL: event@shaplaneer.org